

No.41 キーワード： 多収性専用品種導入、鶏糞利用、機械の効率利用

農事組合法人 川西
山口県山口市

基本情報

【H26年度現在】

瀬戸内海に面し、河川流域を中心に大規模な農地が開けている

- ・ 労働力
男性40名 女性10名 雇用2名(事務)
- ・ 飼料用米の作付開始：H21年産

品目	作付面積	平均区画
主食用米	56ha	100a
加工用米	17ha	100a
飼料用米	6ha	100a
WCS用稲	14ha	100a
麦類	50ha	—
大豆	10ha	—

経営方針(重視・優先していること、こだわり等)

- ・ ほ場整備を契機として平成20年度に農事組合法人を設立し、大区画化された水田を集積
- ・ 土地利用効率200%を目標に麦、大豆、野菜の二毛作に加え飼料用米、WCS用稲を作付
- ・ 経営規模は約150haとなり、平成27年度から農大卒業者を雇用
- ・ 飼料用米は県内実需者(養鶏業者)との連携により栽培を実施

稲作の施肥・防除におけるコスト低減の取組

【飼料用米】

多収性専用品種(ホシアオバ)を作付

(籾収量755kg/10a(玄米換算604kg)と県基準単収504kgに比べて高い(平成25年))

・ 肥料

生産者と実需者が連携し、鶏糞利用により肥料費を削減。

≪施肥体系≫鶏糞0.5t/10a+化成肥料(緩効性)

・ 機械

① マニースプレッダの広域利用による散布コストの低減。

② 大区画ほ場を団地化して作付を行い、大型機械を利用した効率的な作業による労働費の削減。

③ 乾燥調製はJAのライスセンターの利用による乾燥調製作業の効率化

導入効果

・ 施肥
肥料費 ▲約1割
(県平均との比較)

・ 労働
労働費 ▲約7割
労働時間 ▲約6割
(県平均との比較)

支援体制

- ・ 実需者、生産者、JA、県等の関係者が連携し、実需者との意見交換やほ場巡回などによる飼料用米の生産意欲の高揚や技術向上の取組を実施

課題・今後の目標

- ・ 主に肉用鶏の鶏糞を利用
- ・ 鶏糞は化学肥料との割合に留意
- ・ 一層の施肥コスト低減に向けて、追肥用可変施肥機を利用した単肥施用の検討



鶏糞搬入の様子